

平成30年度第2回阪南市子ども読書活動推進会議

開催日時	平成30年7月12日（木） 午後2時
閉会日時	平成30年7月12日（木） 午後3時15分
会議場所	阪南市立図書館 視聴覚室
出席委員	委員長 森本 典子（阪南市子ども文庫連絡会）
	副委員長 石原 慎（生涯学習部学校教育課）
	委員 西野 豊子（市民公募）
	委員 谷本 美由貴（阪南市みんなの図書館を考える会）
	委員 下林 奈央（飯の峯中学校）
	委員 嶋田 由香理（尾崎小学校）
	委員 南 智珠子（尾崎保育所）
	委員 宍道 恵子（子育て総合支援センター）
	委員 油谷 優公（こども未来部こども家庭課）
	委員 井上 真理（生涯学習部生涯学習推進室）
	委員 加藤 靖子（生涯学習部図書館）
	委員 宮元 早苗（まい幼稚園）
	委員 藪内 かおり（健康部健康増進課）
	欠席委員
委員 大塚 尚子（はんなん子育てネットワーク）	
委員 東堂 美幸（子どもNPOはらっぱ）	
委員 佐藤 萌香（阪南市社会福祉協議会）	
事務局出席者	図書館主幹 森下 喜代子
	図書館総括主事 中山 直子

平成30年度第2回阪南市子ども読書活動推進会議 会議録

- 図書館長挨拶 大学生協の調査によると、読書時間“0”の学生が56.9%という驚きの結果が出ていた。スマホ利用の平均は3時間。本がなくても情報の取得は可能で、本を読もうが読むまいが自由ともいえるが、子どもの読書に関しては該当しない。大阪府の第三次子ども読書活動推進計画が平成28年度に策定されており、子どもが本を好きでない理由として「読みたい本がない」ことがあげられている。読みたい本に出会うための環境は大人が整えてやらなければならない。特に阪南市は書店もないに等しい状況である。委員の皆様それぞれの立場で出会いの場を増やせるよう第三次計画に盛り込んですすめていただきたい。
- 委員長 本日欠席の委員は、市民公募・橋本委員、はんなん子育てネットワーク・大塚委員、子どもNPOはらっぱ・東堂委員、阪南市社会福祉協議会・佐藤委員、泉鳥取高校・福井委員である。
- 案件1 第三次計画における具体的な取組について
- 委員長 記入いただいたシートの内容をまとめたものを配布している。前回の暫定テーマ“読む楽しさを共有する”については、特に反対の意見もなかったので、この方向で進めてよいか。
- 図書館長 子育て支援センターの意見を読み、“読む楽しさ”というよりは“本の楽しさ”にした方が文字を追うだけでなく、ゆるい柔らかい感じがでてよいと感じた。シェアブックというイメージではどうか。
- 委員長 いい案が出れば変更可能ということで、“本の楽しさを共有する”で進める。では、シートをもとに各委員に要点を発表していただく。
- A委員 みんなの図書館を考える会は、読書環境を整備することを中心に活動している団体である。図書館が身近なものであるためには西部地域に分館が必要であること、学校図書館が機能するためには資料があり、人がいて開かれている状態の保持が大切であることを中心に、理解を得られるよう、関係機関に働きかけていく。
- B委員 市立幼稚園では、子どもたちが絵本を楽しむことは継続して取り組んでいる。絵本コーナーに季節感や行事・遊びを考慮に入れた、魅力的で楽しい絵本を提示していく。教師や友達とイメージの“共有”を意識した読みきかせタイムを毎日行う。読みきかせした絵本はすぐに手に取れる場所に用意し、友達と一緒に楽しめる環境を作る。学校が近い幼稚園では学校図書館へ、図書館が近い幼稚園では図書館へ出かけていく。週末の絵本の貸出では書名のみで記録をとっていたのを、感想を入れるコメント欄を設けようと考えている。
- C委員 保育所では、絵本コーナーの本を子どもが自ら手に取れるように、力を入れて工夫していく。また、読書がブックスタートからつながるように意識して取り組んでいる。
- D委員 子育て支援センターは子どもだけの利用ではなく保護者も一緒なので、事業の中で子どもが興味を持った絵本が保護者に伝わり、その絵本を家でも読んでみようか、とつながる。絵本だけにとらわれず、ペープサート等もきっかけとして利用し、絵本にたどりつく啓発をおこなっていききたい。
- E委員 私立のこども園等に対しては、市の計画があるからといってストレートに伝えるにくいので、強化してほしい、飽きない工夫をしてほしいとお願いしている。読みきかせ等は今後も継続して実施していくという回答はもらっている。
- F委員 保健センターでは、絵本をメインにしたものは行いにくい、折に触れ、意識的に情報提供をするようにしている。
- G委員 留守家庭児童会は指定管理者が運営しているので、こちらからお願いしていることと指定管理者からの報告をもとに記載している。西鳥取公民館の絵本関連の講座も継続していく。

H委員	阪南市子ども文庫連絡会は、関係団体と連携して知識やスキルを共有していく。市立図書館が取り組んでいる事業があれば積極的に参加・協力していく。
I委員	教育委員会では学校図書館専任司書の1校1名配置を進めている。各校の活動情報などを共有することにより、貸出冊数は年々は増えている。
J委員	図書館での子どもたちに向けたサービスには限界がある。子どもたちだけでは来られないという状況があるためである。学校へ“絵本のひろば”を配達し、すべての子どもに本の楽しさを共有することを体験してほしい。市内全小・中学校へ年1回以上の実施がこの計画の目標である。幼稚園や保育所にも行きたいが、そのためにはボランティアの育成が必要となる。私立の機関にも広報をしていく。
委員長	事務局より補足説明があればお願いします。
事務局	今回提出いただいた内容は、全体的にトーンを整えたうえで、第三次計画における取組のページに掲載したいと考えている。については、今後各委員に個別に原稿の校正等を依頼することとなるので、よろしくお願ひしたい。
案件2	第三次計画の構成について
委員長	それでは案件2について、事務局より説明をお願いします。
事務局	お配りしている「第三次阪南市子ども読書活動推進計画」と以前にお渡ししている第二次阪南市子ども読書活動推進計画を比較して説明する。 第二次計画では、第一次計画を振り返って成果と課題を抽出した後、基本方針の確認、現状と課題及び推進のための取組となっている。 今回、基本方針は普遍性があること、第1次・第2次を振り返る必要があること、成果と課題は過去とこれからを切り離した方がわかりやすいのではないかとということ等を考え合わせ、別添案のような構成とした。 また元号の変更が決定していることから、年については西暦あるいは西暦と元号の併記と考えている。 以上について、ご意見をお伺ひしたい。
委員長	ただ今の説明について、意見はあるか。 まだ追加も可能であるので、各委員事務局と調整していただきたい。
案件3	平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
委員長	次に、案件3について、事務局をお願いします。
事務局	最新（平成29年度）の全国学力・学習状況調査についての結果が出ている。委員の皆様には今後の参考にしていただきたい。第二次計画にも平成24年度の結果を掲載しているので、第三次計画も同様としたい。G委員に調査について解説をお願いします。
I委員	最新の調査は平成30年の4月に小学6年生と中学3年生を対象に行っているが、結果は年末頃になる。平成29年度の結果はHPや市役所の情報公開コーナーで閲覧可能である。配布した資料は平成29年度の結果を抜粋したものである。 以下、阪南市の数値について述べる。朝食については、毎日必ず食べている子どもたちの比率は全国平均以下である。さらに厳しい結果となったのはゲームやスマホをする時間で、全国平均をかなり上回っている。1日あたりの勉強時間等にも差が見られる。ただ、地域の行事参加については全国より良い結果が出ており、祭礼への参加の影響が考えられる。新聞については、新聞業者が4大紙を月交代で各学校へ届けてくれているので、それぞれ触れる機会が持っている。 読書は好きですかという質問に対しては、小学校では全国平均以上であったのに、中学校で下がってしまう。けれども学校図書館専任司書の活躍等もあり、経年では上昇傾向が見られる。ゲームやスマホを使う時間が読書時間を阻害しているのか。教育委員会としてもこのままではよくないと考えているので、チラシをつくり、現状を訴えている。1回配って終わりではなく、継続して行っていく予定である。
委員長	ただいまの件について、意見や質問はないか。

- 委員長 新聞に関しては、購読しない家庭も増えている。スマホに関しては親が乳母車を押しながらスマホを使っている状況で、大人の生活がスマホに支配されている。親子一緒に時間を作っていこうという取組が必要である。親に通じないと子どもたちに伝わらない。
中学校ではどうか。
- K委員 中学校では、朝の読書を実施している。教師が行かなくても自主的にできているのに、「本を読んでいるか」という質問には「いいえ」と答えている。認識にズレがあるようなので、アンケートの数字は正しくないところがあるのかもしれない。
新聞については、全ページカラーの読売中高生新聞を購読しており、全く興味がないわけではなく、特に芸能欄は興味を持って見ている。そのあたりから上げられればと思う。
- 委員長 小学校はどうか。
- L委員 友達との過ごし方にゲームをあげる子は多い。学校では読書家のイメージがある子も家では読んでいないようである。教室や図書館には本があるが、家にはないからか。
- 委員長 塾や習い事の合間をぬって、ほっとできる時間がゲームの時間になっているのかもしれない。
レストランで家族4人がそれぞれひたすらゲームをしている姿をみて驚いたことがある。
- M委員 スマホのゲームはどこでもできるから。
- I委員 PTAの研修も、機会があれば生活環境の改善について行いたい。現状を知ってもすぐに変えることは難しいかもしれないが、続けていたらどうなってしまうか、変えたらどんな良いことがあるか話ができたらと考えている。
- 委員長 幼稚園や保育所はいかがか
- B委員 スマートフォンの音声認識で、文字が読めない子どもでもYouTubeが楽しめる。便利といえるのかもしれないが、スマホに子守をさせてしまっている。
保護者向けに目につくところに絵本のコーナーを作ると、迎えて来た時に気が付き、開いたり読んだりしてくれる。あれば見るが、なければスマホとなってしまう。絵本の楽しさをうまく伝えたい。
- 委員長 「スマホは赤ちゃんによくない」と踏み込んではいけないのか。
- F委員 スマホに子守はさせないようにという話は健康教育でもするが、親も疲れていると、食事の用意をする間などにスマホを見せてしまう。最初はいけないと思いながらだったり、時間制限をしたりするが、一線を越えてしまうと際限がなくなってしまうようである。バランスが難しい。子どもは覚えが早く面白いことがわかるとその間は静かになるため、親もつい頼ってしまい悪循環に陥る。
- 委員長 授乳しながらスマホは見ないでとか、赤ちゃんの目を見て話しかけてあげてとか程度には言えるのではないか。
- F委員 その程度であれば可能である。
- C委員 保護者は、保育参観で子どもの絵本に対する反応に興味を示すが、成長して自分で読める年齢になるにつれ、本から離れてしまう。4.5歳児は図書館に連れて行ったりしているが、仕事で忙しく、たまの休日も行楽や買い物優先され、図書館に至らない。
1歳児の母親が子どもの好きなYouTubeはこれこれと平気で伝えてくる状況である。その子ども自身は絵本は好きだし、歌うことも好きなのに、子どもがどれくらい絵本好きになるかは保育所が頑張るしかないのか、と感じる。
- D委員 保護者にしても、本があり、さあ好きなのをどうぞといわれても、取りかかるのは難しいようである。それを読みたくなるきっかけ作りが必要。書店にいてもおすすめのコメントがあれば読んでみようと思う。地域ボランティア等の力を借りながらきっかけ作りをすすめている。

E委員	市役所の窓口でも、親がスマホに依存していると感じる。
G委員	5年前（二次計画）はテレビをなるべく見せないように、と議論していたことを思い出した。今のこどもはテレビをあまり見ない。5年で状況は変化している。三次計画にも巻末資料をつけるのであれば、今の時代にあったものを考えなくてはならない。
M委員	“まほうのおばさんのおはなしかご”の参加者も少子化の影響で減っている。自分が参加した会は3～5組だった。受付をしていて感じたことは参加の後は顔つきが違って見えるほど楽しんでくれていたこと。活動は20年程になりほとんど変わらないスタンスで実施しているのだが。
A委員	今年はずくずく塾とわくわく教室の実施の週が互い違いになったのでよかった。去年は重なったため、参加できないという子がいた。ずくずく塾ではスマホは持ちこみは可としているが、イベント中は使わせない。付添いの親が使ってしまう。できるだけ子どもと同じことをさせようと誘うが、子どもと離れたいという気持ちがあるのも理解できる。参加している大きい子が小さい子の面倒をよく見てくれるので親も安心している。大きい子の手前、スマホは止めてほしいと言えばやめてはくれる。とりあえず子どもを連れて、外に出向いてきてくれたことを評価したい。続けて次も参加しようと思ってもらいたい。自由にボードゲーム等で遊べる日も設定している。スマホ以外にも楽しみがあるということを示していかなければと思っている。地域の子を呼び寄せたい。大きい子の中には読んであげたいという子もでてきた。素の自分が出ないと感じるのかビッグブックや紙芝居が人気で、同じ作品を何回も読んでくれる。自分を表現する時間はいいと思う。こういう場をこれからも提供していきたい。
委員長	今の時代スマホを全く切ること、子どもたちから取りあげることは無理。「マンガばかり読んで」「テレビばかり見て」「テレビゲームばかりしている」…各時代があったが、スマホは少し質が違う。スマホ以外にも楽しいことがあることを親子で共有し、うまくバランスを取る必要がある。“絵本のひろば”は日頃読まない本が手に取れてよかったという意見を聞いた。楽しむきっかけになると思う。どんどん広がってほしい。
案件4	事務連絡
委員長	事務局より連絡があればお願いします。
事務局	本年度の第3回会議は9月20日（木）を予定している。会議では「素案の素案」段階のものをお示しして諮っていただきたいと考えている。そのため、これまでの成果と課題、今後の取組についてどのような文章にしていけばよいのか、各委員と主にメールやイントラで詰めていきたい。連絡時には標題に「子読推」の文字を入れていただき、見落としがないようにお願いします。
委員長	説明に対する質問はないか。
事務局	本日予定していた案件は以上である。
委員長	特に意見もないようなので、平成30年度第2回子ども読書活動推進会議を終了する。